

非鉄金属

三芳合金工業

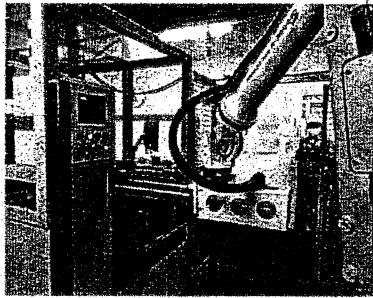
全自動探傷装置を導入

超音波検査能力倍增、短納期化

大和合金グループで銅合金の鋳造品・鍛造品などを製造する三芳合金工業（本社・埼玉県三芳町、社長・萩野源次郎氏）は全自動式の超音波探傷装置を導入した。航空機や電子通信、新エネルギー関連分野での中長期的な需要拡大に備え、納期対応力を高めることが狙い。超音波探傷検査の工程能力は約2・5倍に高まるほか、検査精度も大幅向上する。投資金額は数千万円。

航空機関連では円筒・通信関連では銅合金鍛造品の銅合金鍛造・押出・造板ニーズが増えることが見込まれる。加えて新エネルギーが欧州向けを中心に、ルギー関連では核融合拡大する見通し。電子・炉向けの銅合金板・管の出荷増を期待。今後顧客からの要求量が増えた際にも納期対応力を確保するため、ボルト・ネットとなることが予測される検査工程を増強した。導入設備3倍に拡大させる。航

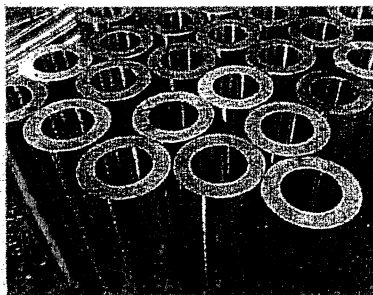
動判別し、それぞれに適した条件で検査できることも利点となっている。探傷精度は検査法の工夫などで、これまでの2倍以上に向上。萩野社長は「顧客に提供する際の品質をさらに高めることもできる」と話している。能力・精度向上に加えて重量物の搬送を機械が行うことから、作業環境改善にもつながっている。これまでの手作業による検査も引き続き行っていく予定。



全自動式探傷装置、24時間稼働が可能となっている。

大和合金 航空機関連向け販売量 今年3倍に拡大へ

銅合金の鋳造品・鍛造品・航空機関連は同社の戦略分野。欧米向けの供給品はアルミ・青銅・高力黄銅製の円筒形鍛造品・押出品であるブッシュが主力。ランディン・グリアと呼ばれる着陸装置の軸受け材料として納入している。長期



戦略分野である航空機向けの銅合金材料

で販売量が大幅に落ち、海外市場での販売増で込んだものの、今年は改善を見込む。

欧州向けはワイズコロナの生活様式が定着している。国内市場についてはほぼ昨年並みの出荷量になると見ている。今後はさらに回復すると見通しており、萩野社長は「欧州顧客への出荷増など、23年向けは整備にはコロナ禍前の販売量を上回るだろう」と話している。